

議会だより

第4回定例議会

平成十八年第四回西栗倉村議会議定例会が十二月十二日に開会されました。

今議会では、総務常任委員会報告、監査委員から事務事業監査報告の後、条例制定1件、条例改正1件、一部事務組合の規約改正など3件、平成十八年度会計の補正予算8件等が審議され、いずれも原案どおり可決されました。

審議の内容は次のとおりです。

○村長所信表明(抜粋)

光ファイバー新設工事ですが、九月二十五日入札、NTT西日本が落札し、住民説明会を経て十一月二十八日安全祈願祭が挙行されました。インターネット加入申し込みが当初の段階で約40%になりました。情報化社会での光ファイバーは産業革命と同等の革命で住民の生活環境を大きく変えていくと考えます。雇用形態が変わり、

村づくりの視点、観光、住民サービス、デジタル対応等可能性が飛躍的に広がります。

十一月末に東京であった全国町村会に出席しました。来賓で安倍新総理は「地域の活力なくして国の活力なし」と「改革内閣」を強調されました。格差社会と言われる状況で財政改革と経済循環の健全な仕組みを提案して欲しいと思います。

町村財政は極めて厳しい現実に直面しています。夕張市の破綻以降、国では破綻法の制定を急いでいます。その中で財政4指標の公表が義務付けられ、住民が自治体の財政を監視する仕組みになります。実質収支比率(一般会計、特別会計)、新たなフロー指標(公営企業会計)、実質公債費比率(一部事務組合含)そして新たなストック指標(独立行政法人、地方3公社、第3セクター)の開示が義務になります。地域は、各種事業の廃止や縮小で、地域経済が閉塞状態になってきています。また財政需要額の縮小で各数値の分母が極端に減額することで悪循環が起きている。

国の経済は改善されて税収は数兆円単位で膨らんでいて、当然地方交付税の財源も1兆数千億の余裕が生じています。しかし国は財

政健全化を優先し、交付税は現状と判断した舵取りはやむを得ません。そこで集中改革プランで方向付けしています

- ・ 行財政改革は繰り返し繰り返し断行する

- ・ 組織のスリム化は中長期の視点で明確にする

- ・ 総合的なコスト意識を持つ

- ・ 複数年予算編成に徹し年度末別起債残高は厳守する

- ・ 縮小均衡での内部経済循環を大切に

- ・ 集中と選択で子育て、定住対策に集中する

- ・ 木の村、交流は短期の課題、長期の課題の克服に

などが、来年度予算編成に向けた基本的な考えです。

次に一部事務組合の作東寮、やすらぎ荘の2組合の一本化と民営化の課題です。

一括民営、半官半民の検討、職員への説明、反対を繰り返し明らかな方向がでないままにいるのが現状です。また困難な雇用問題が解決していないことから二転三転する可能性があります。

農業共済事業の広域化も岡山県全体での話になっていきます。

また常備消防についても総務省の指導は津山圏域20万人以上の広域化となり、検討課題です。

本議会に提案している岡山県後期高齢者医療広域連合の設置について、国の法律だから仕方ないで片付ければ議論は要りません。

西栗倉の後期高齢者人口331人、県下21万6000人、一般会計約4億2000万、特別会計約2000億になり分母は確かに大きくなり安定します。

心配な要因は老人医療費の伸びが顕著で中長期に向けて安定した経営が可能かどうかです。また、岡山県の係わりが弱いことも心配の一つです。

西栗倉のデメリットは、老人一人当たりの医療費格差にあります。最高の玉野市は約92万円、最低の西栗倉は約56万円、平均で約80万円です。老人保険料、市町村負担金、国保会計の縮小、国保2割負担の整合性等沢山の課題を抱えています。西栗倉が長年築き上げてきた健康対策が一気に消滅しないように、これらの問題解決に全力で当たる所存です。

○報告

◇総務常任委員会報告

(幼稚園・小学校・中学校と子ども館の視察の報告)

◇各組合議会報告

◇例月出納検査報告

(十月十七日実施分)

(十一月十三日実施分)

◇事務事業監査

森の村振興公社、観光協会

(九月二十七日実施分)

あわくら荘、あわくらんど、

黄金泉、旬の里

(十月二十七日実施分)

総務企画課関係

(十月十八日実施分)

○可決した議案

《条例の制定》

◇西栗倉村財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例

《条例の改正》

◇職員の分限に関する条例

《一部事務組合の設置》

◇岡山県後期高齢者医療広域連合の設置

《一部事務組合同規約の改正》

◇岡山県市町村総合事務組合を組織する市町村数の減少及び規約の一部改正

◇岡山県市町村税整理組合を組織する市町村数の減少及び規約の一部改正

《補正予算》

◇一般会計(第3号)

補正額 △六、三八七千円

予算総額 二、〇〇九、七〇一十千円

(補正の主なものは、ふるさと回

帰促進事業、新規就農者奨励金、

商工会助成金、農地・林道災害普

及費等)

◇国保事業会計(第2号)

補正額 三、五八〇千円

予算総額 二〇三、三九九千円

(一般被保険者医療費の増額、保健運営事業費の減額等)

◇国保診療所会計(第2号)

補正額 五、一八四千円

予算総額 九一、八二六千円

(前年度繰越金の確定)

◇介護保険事業会計(第2号)

補正額 △七、七二三千円

予算総額 一六一、三三四千円

(居宅介護サービス費の増額、地域密着型介護及び施設介護サービス費の減額等)

◇休憩施設事業会計(第2号)

補正額 四三八千円

予算総額 一〇五、八〇二千円

(旬の里施設修繕費等)

◇簡易水道事業会計(第3号)

補正額 五、四一五千円

予算総額 一九二、〇九二千円

(路面復旧工事費、起債償還利子等)

◇宿泊施設会計(第2号)

補正額 △五五五千円

予算総額 六七、九三三三千円

(あわくら荘繰入金の減額)

◇農業集落排水事業会計(第4号)
収益的収支

補正額 四一一千円

(マンホールの修繕等)

資本的収支

補正額 四五千円

(公共マス新設工事2件)

○陳情

◇コンベンションホールのコート

改修を要望する陳情書

陳情者

西栗倉村ゲートボール協会

採択

○一般質問

金田豊治 議員



戦後、高度成長、列島改造、バブル時期など、目まぐるしい時期を経て、この間西栗倉村も大きく変貌してきたと思います。この小さな山村でも、いち早く進められた上下水道の整備により、生活環

境の変化、まただれもが望んだ智頭線により、関西圏と岡山市への利便性が改善されました。それに加え今まさに道路整備の真つ最中、姫鳥線の開通が目前に迫る今、西栗倉村は交通便、ライフラインと言った私達の生活面でも大変便利な村に変わりつつあり、いまだ進化を続けています。

これは言うまでもなく、先人の努力の賜物だと感謝に堪えません。この便利さを活かすも殺すも、行政、議会がリーダーシップをとり、今後より一層住みよく快適な村に導いて行くことが私達の責務だと考えております。

前段で述べた姫鳥線により車の往来、物流等は今以上に増大されると見込まれます。その増大される人、車を指をくわえて通り過ぎさせることは、西栗倉村の観光面全般を考えてみるてもある意味死活問題になりかねません。

この事から観光面全般の戦略並びにアピール等の手立ての草案があればお聞かせ下さい。

また、この姫鳥線を活かした関西、鳥取市との県境を越えた連携を今後どう押し進めていく考えか。特に今生活圏と言っても過言ではない、20万人鳥取市との連携を重視すべきではないでしょうか。

以上合併を見送った村として、

この姫鳥線を活かすことが、ある意味西栗倉の試金石になることを願って質問を終わります。



村長答弁

姫鳥線の波及効果

姫鳥線の開通予定ですが、鳥取県側が平成十九～二十一年、大原佐用間が二十一年。

西栗倉は、未収用地が3件残っています。また、あわくらんど裏のバイパスとの接点約600メートルの用地の収用がこれから始まることから、早くて五、六年は必要です。

山陰側は人口減少にありますが、高速道路のネット化で、交通量は大幅に増加すると思われます。

現状は平日40000～50000台、普通の日曜で8000～8500台、ゴルフデンウィークで10000～12000台です。時間的短縮で国道29号と53号からの

車の乗り入れが起こればと思われるです。

日曜日のあわくらんどへの立ち寄りには約10%前後がカウントされています。土日の正午前後と連休の終日は明らかに駐車場不足です。施設の大きさ、人的能力からすると限界をどこに設定するかで大きな影響がでます。

車社会で道路の利便性が高まることは智頭急行の電車の利便性より明らかに有利に展開できます。

特に新直轄の高速道路で無料というのは魅力です。大きく利便性が広がることは事実ですが、いかに利便性が高まっても魅力のない村は淘汰されます。

都市対村のすみ分け

昭和四十六年にスタートしたあわくら荘、野鳥苑、黄金泉、あわくらんど、旬の里の果たした役割は全村民が認めることです。

西栗倉の顔としての役割、雇用の創出、元気印等総論としての継続の意義と、このような厳しい財政状況での施設の持続は冷静な判断が必要です。

少なくとも世界はさらに効率、規模、簡便に向かいます。そのことを冷静に分析したマクロの視点とミクロの展開が重要です。近年

の財政状況を受けて贅肉を削いできました。経済環境がやや上向きな今、新たな展開を模索するチャンスでもあります。

村の資源の掘り起こし、地産地消、食をテーマとした祭り、森林認証へのこだわり、清流、四季、原生林等の年間カレンダーの充実等・・・。

時代を超えた村の役割をプロデュース、企画、販売を総合的に捉えていきます。実はこのことは観光に限らず交流、定住、教育も含めた村の存続の挑戦です。

短期的な課題の克服、長期的な村の理念、その中で戦略と戦術を繰り返すことが大切です。

通勤圏の課題

鳥取市との関係も大切です。すでに期成同盟会で活動して情報交換をしています。また智頭急行では沿線の活性化に向けて共通の認識で行動しています。すべて地域資源の開発と交流です。

西栗倉は上下水道、福祉サービス、教育施設、情報化への対応と生活環境の整備が終わり、しかも交通の利便性は抜群です。西栗倉を中心とした一時間以内の生活圏は相当に広がります。

団塊の世代の定住も意義があり

ますが、団塊ジュニアの定住環境の整備も必要です。

圏内の会社のリストを作成して高校、大学の卒業生にダイレクトメールを送送することも含めて次年度は定住と心産業の掘り起こしに全力であらうと考えています。

いま経済産業省の交付金事業と厚生労働省の雇用対策のメニューを検討しています。

いずれにしろ極めて大切な視点です。これからも議論をお願いいたします。

